

オープンキャンパスのご案内

山大音研では来たる8月4日の午後1時から4時まで、教育学部音楽棟にてオープンキャンパスを開催します。予定している内容は次のとおりです。

◎カリキュラム説明

山大音研は、小学校や中学校や高校で音楽を専門に教える教師を育成しています。

オープンキャンパスでは、大学4年間で修得することを、大学での授業の様子を映像で見ながら詳しく説明し、みなさんが疑問に思っていることにわかりやすくお答えします。



たとえば……

- ・音楽教師に必要とされる基礎基本はどのようにして身につけるのか。
- ・教育実習（＝初めての教師体験）に向けてどのような学習をするのか。
- ・教員として身につけるべき、指導実践における専門性はどのように磨かれるのか。
- ・ここ数年の卒業後の進路はどうなっているのか。

——などなど

◎公開レッスン（声楽・ピアノ）

山大音研では、学生の音楽的専門性をより高度なものにするために、実技レッスンにも力を入れています。オープンキャンパスでは、公開レッスンとして、どのようなレッスンをおこなっているかを見ていただけます。

声は不思議な「楽器」です。生まれた時から備わり、もともと身近な存在であるにも関わらず、ほとんどの人はその仕組みについて思いを巡らせることはないし、思ったよりも自分の意思通りには扱えません。

声楽学習においては、まず声の出る仕組みについての理解を深めます。どのようなプロセスを経るのか、また歌唱に求められる声とはなんなのか、そういった見識によって自らの声の特性を知り、各々の目標を定めることができるのです。そして、古典的な楽曲を通して、柔軟な表現を可能にする歌声と、音楽を読み解く感受性を共に育てていきます。レッスンにおいては学生同士の鑑賞を勧めています。様々な声種、あるいは課題克服の過程をともにすることは、自身の振り返りや新たな発見に繋がるのみならず、学校現場でふれるだろう児童・生徒の多様なケースに応じた、実践的な引き出しになるでしょう。

今回の公開レッスンでは、声楽初学者の教材として広く普及しているパリゾッティ編「イタリア古典歌曲集」を取り上げます。発声や発音に関する技術と作品の様式にあった曲想、またそれを表現するための方法について学んでいきます。（文責：白岩洵）





「楽譜を読む」ということ、これは単に、音、リズム、強弱、アーティキュレーションなど、譜面上に書かれてあることを見逃さずに取り取るだけではありません。そこから作曲者が何を伝えたいのか、或いは何を感じ取ってほしいのかということを読み取るのが重要で、それを音で表現していくことが「演奏」につながります。そして演奏に際しては、柔軟に身体を使いながら、奏でた音を身体で聴くことが求められます。レッスンにおいては、手首・腕など身体の使い方など再度基礎を見つめ直すことから始めています。

公開レッスンでは、ショパンのスケルツォを採り上げます。整った形式美でありながら、起伏に富んだ雄弁さがあり、軽妙さと叙情性、柔と剛を併せ持った作品を、どのように音で表現するためにアプローチしていくか、その一端をご覧いただきたいと思います。

(文責：友清祐子)

◎合唱体験

変声期（特に男子！）は急に声が低くなる中学生の時期に訪れると捉えられがちですが、実は小学校高学年で第一段階が始まるケースが多く見られ、大学生くらいの年齢で安定します。したがって、大学では、小・中・高校とはひと味違った合唱の響きを体験することができます。さあ、あなたも一緒に合唱を体験しませんか。

◎演奏発表

二重唱、ピアノ独奏、ピアノ連弾、金管二重奏など

◎座談会

少人数のグループに分かれて、在学生とのフリートークを予定しています。打ち解けた雰囲気なかで、学習環境や大学生活の様子など、いろいろな質問にお答えします。

みなさんのお越しを

お待ちしております！



お問い合わせは下記メールアドレス（斎藤）までお願いいたします。

mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp

「山大音研」で検索すると、当教室のHPをご覧いただけます。

なお、悪天候などによるオープンキャンパス中止や延期に関する情報は大学HPをごらんください。